令和7年度東京桑野会 総会開催にあたって

東京桑野会副会長

佐藤重夫

(七十九期)

去る、6月28日15時30分より、本年度の東京桑野会定期総会・講演会・懇親会を開催することができました。会場につきましては、1昨年まで目白の椿山荘、昨年は目黒雅叙園とホテルで開催してきましたが、昨今の物価高、特に東京のホテルは、インバウンドと相まって高騰を続けており、ここ数年で倍近くに跳ね上がって、我々の予算での開催は、不可能になりました。役員幹事会において、再三にわたり検討していた結果、千代田区一ツ橋の教育会館にある「喜山倶楽部」にて開催する運びとなりました。当日は、逝去された物故会員への黙禱に始まり、浅川章（76期）会長の挨拶があり、和田正哉（77期）副会長が議長に選任され、所定の議題を全員一致で議決しました。会則について、一部改正を行い、幹事については、若手会員、

女性会員の会への積極的活動を促すため、共学になった117期以降は、各期男女各々1名以上を任命することといたしました。

講演会は、会が始まって以来の、女性卒業生渡辺エリカ（118期）様に講演をお願いしました。渡辺様は、大学卒業後、書籍編集者・ブックライターとして多くの書籍の発行に携わり、はたまたアメリカまで行ってアーティストとしてライブと、マルチなご活躍なさっており、「私の人生の切り開き方々無職から書籍編集者、そして世界のアーティストへ」と題して講演していただきました。明確なビジョンを持って、戦略を立て、覚悟をもって諦めずにチャレンジすることで母校の開拓者精神を具現化していることは、我々の人生に触発されるものであり、大変刺激を受けました。

懇親会は、母校より森下陽一郎校長、笠間善裕（84期）安積桑野会会長に、来賓のご挨拶を賜り和やかなうちに行われました。コロナ禍の影響もあり、全員着席にて行っておりましたが、今回は、立食で行うことができました。着席ですと、どうしても同期で固まってそれ以上の発

展がありませんが、立食ですと、方々で会話の輪ができるので一段と親睦、情報交換の場として、出席した甲斐があったかと思えます。今回は、根本匠（82期）元厚生労働大臣、玄葉光一郎（96期）衆議院副議長も出席いただき、ご挨拶を頂きました。最後は、大谷真弘（88期）副会長、女性元応援団長らの指導の下、校歌、応援歌を斉唱して閉会しました。

今回の出席者は、昨年より83名と若干上回りましたが、まだコロナ禍前の出席者に至っておりません。喜ばしいことは、卒業学生が1名出席したことです。コロナ禍前は、10名以上見込まれておりましたが、この頃は、皆無でした。来年は、こちらの大学に入学された方は、無料です。是非とも出席頂ければと思っております。女性も4名出席いただきました。どこも、大学・高校の同窓会は、若手・女性の参加者の減少に頭を悩ましております。今後、若手・女性の当会への参加を呼び掛けるとともに、会運営の積極的なご意見をいただければと思っております。